本 会 会 報

学会だより

◇ 会員の栄誉

田中若奈会員と門田有希会員が 2020 年度(第 19 回)日本農学進歩賞を受賞しました.

本会会員の田中若奈氏は「イネの小穂と分げつの形態 形成に関する分子遺伝学的研究」の業績により、門田有 希会員は「高次倍数性作物種における遺伝育種学的解析 と品種識別技術の開発」の業績により、公益財団法人農 学会から 2020 年度(第 19 回)の「日本農学進歩賞」を 授与されることが決定しました。日本農学進歩賞は、農 学の進歩に顕著な貢献をした者に対して農学会から贈ら れるものです。

◇ 令和 2 年度 第 2 回運営委員会議事録

日時: 2020年5月16日(土) 14:00~17:30

場所: Web 会議システム (Zoom) による開催

出席者:大澤良,加藤鎌司,中園幹生,吉岡洋輔,西田英隆,井澤毅,岩田洋佳,津釜大侑,畠山勝徳,小野寺康之,高橋秀和,山根京子,横井修司,草場信,久保貴彦,加賀秋人,辻寛之,那須田周平,久保山勉,川浦香奈子,風間智彦,門田有希

欠席: 奥崎文子

各運営委員からの活動経過報告の後,以下の事項について審議された.

- ①普通会員のシニア会費制度に関連する内規変更について
- ②運営委員(HP担当)の退任と後任について
- ③大会開催における消費税の扱いについて
- ④秋季大会の開催方法について

◇ 令和 2 年度 第 3 回運営委員会議事録

日時: 2020年9月12日(土) 14:00~17:30

場所:Web 会議システム(Zoom)による開催

出席者:大澤良,加藤鎌司,中園幹生,吉岡洋輔,西田英隆,井澤毅,岩田洋佳,津釜大侑,畠山勝徳,小野寺康之,山根京子,横井修司,草場信,久保貴彦,加賀秋人,辻寛之,久保山勉,川浦香奈子,風間智彦,門田有希

欠席:高橋秀和,那須田周平

各運営委員からの活動経過報告の後,以下の事項について審議された.

①次期シンポジウム委員の選定と任期(1年)について ②第138回講演会謝金について

- ③運営委員 (IT) の追加と選任
- ④日本育種学会奨励賞に関する内規の変更等
- ⑤名誉会員の推戴及び功労賞受賞者の推薦に関する申し 送り事項の更新
- ⑥令和2年度名誉会員の推戴及び功労賞受賞者推薦
- ⑦ R3 年度春季大会が開催されなかった場合の学会賞・ 奨励賞授賞式
- ⑧ Web サイトのページ構成の変更またはリニューアル
- ⑨新編集委員の推薦
- ⑩育種学会賞等受賞者の「育種学研究」への寄稿
- ⑪ 2021 年春季大会の開催方法について
- ②読売農学賞の協賛企業の募集について

◇ 第 10 回代議員会議事録

日時:2020年10月4日(日)15:00~18:00 場所:Web 会議システム(Zoom)による開催

(理事・運営委員・監事・各種委員)

出席者:大澤良,加藤鎌司,中園幹生*,吉岡洋輔,西田英隆,井澤毅,岩田洋佳,津釜大侑,畠山勝徳*,小野寺康之,高橋秀和*,山根京子*,横井修司*,草場信*,久保貴彦*,久保山勉,川浦香奈子,加賀秋人,那須田周平,風間智彦,門田有希,久保友彦,経塚淳子,富田因則*【24名】

欠席者: 辻寛之【1名】

(代議員)

出席:貴島祐治,加藤清明,高牟禮逸朗,北柴大泰,畠山勝徳*,赤木宏守,高橋秀和*,石本政男,宇賀優作,江面浩,江花薫子,吉田均,米丸淳一,福岡修一,新倉聡,房相佑,佐藤正紀,井藤純,木下哲,高野哲夫,堤伸浩,三浦孝太郎,山根京子*,掛田克行,中園幹生*,富田因則*,半田裕一,横井修司*,築山拓司,佐藤和広,草場信*,田中裕之,久保貴彦*,藤田大輔,緒方大輔【35名】

委任状 (議決権行使): 金澤章, 松田靖【2名】 欠席: 笹沼恒男, 矢野健太郎, 清水顕史【3名】

〈* 役員・委員と代議員を兼任〉

議長:代表理事(大澤会長)

議事録:運営委員(庶務担当総務第二)

出席者数は代議員会の定足数(20)を満たしていた.

1. 報告事項

(ア) 運営委員会報告(各運営委員)

総務:会員数,冊子発行部数,Webサイト更新回数,メールニュース配信回数,シニア会費制度利用申請,契約(第138回講演会をオンライン開催に変更したことに伴う業務委託に関する契約変更),運営委員会決定事項,

会議開催予定

科研費:補助金交付決定, BS 科研費実績報告

会計:2020年度中間決算に関して例年よりも厳しい状況であることが報告された. 会費・広告収入減,科研費未交付,第137回大会中止等,変動要因が多いため,決算時までに原因を分析するとのことであった.

編集(英文誌):編集状況,特集号の進捗と予定,企画 総説,日本育種学会論文賞の選考,BS科研費への対応, 次期BS科研費の申請,その他検討事項

編集(和文誌):編集状況

集会:2020年秋季大会,今後の大会開催予定

記者発表:第138回大会記者発表

農学会: 2020 年度農学会シンポジウム, 2021 年度農学 賞, 2021 年シンポジウムテーマの募集, 2021-2022 年の 常任委員割当

2. 審議事項

(ア) 通常決議議案: 令和2年度日本育種学会賞の選考 について

学会賞等選考委員長より、以下の3課題の日本育種学 会賞候補の推薦理由について説明があった.

- (1) 福田善通(国際農林水産業研究センター)「国際的ネットワーク研究によるイネいもち病抵抗性判別システムの普及と利用」
- (2) 中村信吾 (農研機構・次世代作物開発研究センター) 「ムギ類の穂発芽耐性機構の解析と育種への応用」
- (3) 水稲品種「つや姫」育成グループ(代表者:中場勝)「炊飯米の新たな外観評価法を用いた広域適応性極良食味水稲品種「つや姫」の育成」

投票の結果,代議員出席者の3分の2以上の賛成票を 得て3件とも承認された.

(イ) 通常決議議案:令和2年度日本育種学会奨励賞の 選考について

学会賞等選考委員長より以下の3課題の日本育種学会 奨励賞候補の推薦理由について説明があった.

- (1) 宮武宏治 (農研機構野菜花き研究部門)「ナスのゲノム・遺伝資源の基盤整備と実用育種への利用」
- (2) 佐久間俊 (鳥取大学農学部)「ムギ類における穂の 多様性に関する遺伝育種学研究」
- (3) 山形悦透 (九州大学大学院農学研究院)「重複遺伝 子説によるイネ属の種間雑種不稔機構の解明と種分化に 関する研究 |

投票の結果,代議員出席者の3分の2以上の賛成票を 得て3件とも承認された.

(ウ)通常決議議案:第17回(令和元年度)日本育種学会論文賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の3報の日本育種学会論 文賞候補の推薦理由について説明があった.

論文 1: Rapid DNA-genotyping system targeting ten loci for resistance to blast disease in rice

掲載巻 (号) • 頁: Breeding Science 69(1): 68-83

著者: Noriyuki Kitazawa, Ayahiko Shomura, Tatsumi Mizubayashi, Tsuyu Ando, Kazufumi Nagata, Nagao Hayashi, Akira Takahashi, Utako Yamanouchi, Shuichi Fukuoka

論文 2: A new DNA marker CafLess-TCS1 for selection of caffeine-less tea plants

掲載巻 (号) • 頁: Breeding Science 69(3): 393-400

著者: Akiko Ogino, Fumiya Taniguchi, Katsuyuki Yoshida, Satoru Matsumoto, Hiroyuki Fukuoka, Atsushi Nesumi

論文 3: The use of a fertile doubled haploid apple line for OTL analysis of fruit traits

掲載巻 (号) • 頁: Breeding Science 69(3): 410-419

著者: Miyuki Kunihisa, Yuki Takita, Nanako Yamaguchi, Hatsuhiko Okada, Mamoru Sato, Sadao Komori, Chikako Nishitani, Shingo Terakami, Toshiya Yamamoto

投票の結果,代議員出席者の3分の2以上の賛成票を 得て3件とも承認された.

- (エ) 日本育種学会運営内規等の変更について
- (1) 運営内規: B. 会員に関する事項

現行の内規では、シニア会費制度の適用には役員(会長、副会長、監事)による承認を受けることになっているが、理事(会長、副会長)による承認への変更が提案された。

- (2) 運営内規: G. 表彰規定に関する事項 奨励賞候補者の年齢制限と推薦の有効期間を明示する ために内規の変更が提案された.
- (3) 申し送り事項:名誉会員推戴の申し送り事項 名誉会員候補者が満たすべき要件,推薦・推戴時期に ついて提案された.
- (4) 申し送り事項: 功労賞に関する申し送り事項 功労賞候補者が満たすべき要件,推薦・受賞時期等に ついて提案された.

投票による審議の結果,代議員出席者から多数の賛成 を得て4件とも承認された.

(オ) 名誉会員の推戴について

上記(エ)で承認された申し送り事項に基づき,長戸 康郎氏,倉田のり氏,奥野員敏氏,吉村淳氏,岩永勝 氏,奥本裕氏の6名の名誉会員推戴が提案された.投票 による審議の結果,代議員出席者から多数の賛成を得て 6件とも承認された.

(カ) 功労賞受賞者の推薦について

上記(エ)で承認された申し送り事項の各項に該当する下記の候補者が推薦された.

第1・2項:長戸康郎氏,倉田のり氏,奥野員敏氏,岩 永勝氏,吉村淳氏,堤伸浩氏,奥本裕氏,矢野昌裕氏 第3項:平田豊氏,大澤良氏,加藤鎌司氏,奥本裕氏, 熊丸敏博氏,山元皓二氏,堤伸浩氏,二宮正士氏,飯塚 宗夫氏,木庭卓人氏

第 4 項: J. Michael Bonman 氏, Andris Kleinhofs 氏, 西尾剛氏, 大澤良氏, 林武司氏, Ahn Sang-Nag 氏, Darshan

S. Brar 氏,加藤浩氏,許東河氏,原田久也氏,寺地徹氏,森直樹氏,辻本壽氏,渡邊敦史氏,山本俊哉氏,石本政男氏,Qian Qian 氏,安井秀氏,加藤恒夫氏,小松田隆夫氏,矢野昌裕氏,近藤禎二氏,山田利昭氏,大島正弘氏,渡邉和男氏,Nils Stein 氏,阿部純氏,穴井豊昭氏,森島啓子氏,田野茂光氏,平井正志氏,友岡憲彦氏

第7項:三位正洋氏, 藤垣順三氏

投票の結果,代議員出席者の3分の2以上の賛成票を 得て全員が承認された.

(キ) その他

(1) 総務:次期シンポジウム委員の選定と任期 (1年) について

審議の結果, 提案内容が承認された.

- (2) 総務:第138回講演会謝金について審議の結果,提案内容が承認された.
- (3) 総務: 運営委員 (IT) の追加と選任について 審議の結果, 提案内容が承認された.
- (4) 編集 (英文誌): 新編集委員の推薦

Suk-Ha Lee 氏の編集委員退任に伴い,Bo-Keun Ha 氏が新編集委員として推薦され,承認された.

(5) 編集(和文誌): 育種学会賞等受賞者の「育種学研究」への寄稿

「育種学研究」への研究内容に関する特集記事の寄稿を受賞者に義務付ける文言を「学会賞候補者推薦依頼」 に追加することが提案され、承認された.

3. その他

(ア) 関連報告

(1) 日本農学賞・日本農学進歩賞の推薦について

日本農学賞は佐藤和広氏,日本農学進歩賞は門田有希 氏をそれぞれ候補者として推薦することが報告された.

(2) 日本学術会議について

日本学術会議会員である経塚淳子氏から,育種分科会の設立準備中であること,同分科会では,3年後のマスタープランに向けて,国として取り組んで欲しい育種学分野の課題を取りまとめる予定であることが報告され,育種学会員への協力要請があった。また,日本学術会議から新規会員候補者の一部が任命されない件について総理大臣に要望書を提出することが報告され,この問題に関して日本育種学会への協力要請があった。会長からは学会としての声明等,対応を早急に検討したいとの発言があった。

(3) JABEE について

技術士第1次試験免除相当プログラムの実地審査,高 校生向けのシンポジウムが次年度に延期になったとの報 告があった.

(4) LMO/ABS 連絡会

2020・2021 年度委員会メンバーの紹介があった. 活動計画として、学生・一般市民を対象とした LMO 及び

ゲノム編集作物の解説用資料(パワーポイント)を作成して学会ホームページで公開する予定であること、学会としてLMO及びゲノム編集作物を後押しするような提言を検討することが報告された。

◇ 第 138 回講演会選定課題記者発表報告

発表日時:令和2年10月5日(月)11:00~12:30 発表場所:東京大学弥生(農学部)キャンパス・農3号館141会議室(Zoomによるオンライン中継有り) 出席者:中園幹生(幹事長),津釜大侑(庶務) 参加報道機関:朝日新聞社,化学工業日報社,河北新報社,食品産業新聞社,日経BP,日本農業新聞社,科学新聞社の計7社7名(科学新聞社はオンライン参加)発表タイトル(記者発表):

- (1) 育種のチカラ~先端技術
- (2) 育種のチカラ~革新的遺伝子
- (3) 高レジスタントスターチ (RS) 米「まんぷくすら り」まもなく販売!

講演タイトル (第138回講演会):

(1) 409「ゲノムの多様性解析から見るイネ育種戦略の 歴史」

白澤健太¹, 川原善浩², 小柳香奈子³, 藤野賢治² (1. かずさ DNA 研, 2. 農研機構, 3. 北大)

(2) 410「寒地稲作における安定生産を可能にした草型 改良の歴史」

池ヶ谷智仁,藤野賢治(農研機構・北海道農業研究セン ター)

(3) 507「高レジスタントスターチ (RS) 米「まんぷくすらり」の特徴とその応用利用」

藤田直子 1-2, クロフツ尚子 1, 三浦聡子 1-2, 保坂優子 1, 追留那緒子 1, 川本朋彦 3, 加藤和直 3, 髙橋竜一 3, 髙 橋里矢子 3, 小野雅美 1-2, 中村保典 1-2 (1. 秋田県立大 学生物資源科学部, 2. (株) スターチテック, 3. 秋田 県農業試験場)

記者発表の報告:

令和2年10月10日(土)及び11日(日)にオンラインで開催される日本育種学会第138回講演会の講演課題(計197課題)の中から,運営委員会で選定された上記3課題について,記者発表を実施した.記者発表後に講演番号409・410の記事が科学新聞(10/30)と日本農業新聞(11/19)に掲載された.また,講演番号507の記事が日経バイオテク(10/8)に掲載され,朝日新聞においても掲載される予定(掲載日時は未定)である.

◇ 第138回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2020年日本育種学会秋季大会(第138回講演会)に おける日本育種学会優秀発表賞が下記の10課題に決定 された. 講演番号 113:全ゲノム変異解析によるイネ品種「ミナミユタカ」の難脱粒性の原因遺伝子の同定

☆李鋒¹, 小松晃², 大武美樹², 清水明美¹, 殷熙洙³, 加藤浩⁴(1. 農研機構・作物開研, 2. 農研機構・生物研, 3. 農研機構・農環研, 4. 農研機構・資源 C)

講演番号 116:全ゲノム情報を利用したパンコムギ早生変異体の原因遺伝子の同定

☆古村翔也 1, 小林史典 2, 大野陽子 2, 半田裕一 2.3, 吉田健太郎 1 (1. 神戸大・院農, 2. 農研機構・作物開発センター, 3. 京都府大・院生命環境)

講演番号 216: mitoTALEN によるシロイヌナズナミトコンドリアゲノム NAD7 の標的遺伝子破壊と表現型解析

☆綾部弘基, 日高朋美, 田村美子, 堤伸浩, 有村慎一 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

講演番号 304:野生イネの放射状草姿形成に関する数理 モデリング

☆徳山芳樹¹, 大西一光², 小出陽平³ (1. 北海道大学 大学院農学院, 2. 帯広畜産大学, 3. 北海道大学農学研 究院)

講演番号 404: A2 fusion rice の作出とその特徴化一稔性を有するアジアとアフリカの栽培イネ種間雑種一

☆北島克哉 1, 増田到 1, 齋藤希 1, 國吉大地 1, 金岡義高 1, 高牟禮逸朗 1-2, 星野洋一郎 3, 小出陽平 1, 貴島祐治 1 (1. 北海道大学大学院農学研究院, 2. 北海道大学大学院国際食資源学院, 3. 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)

講演番号 410: 寒地稲作における安定生産を可能にした 草型改良の歴史

☆池ヶ谷智仁,藤野賢治(国立研究開発法人農業・食品 産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)

講演番号 620:深層学習によるカキ果実画像からの早期 軟化予測モデル

☆鈴木茉莉亜¹, 増田佳苗², 竹下孔喜³, 朝隈英昭⁴, 鈴木哲也⁵, 杉浦真由⁵, 新川猛⁵, 内田誠一³, 赤木剛 士²(1. 岡山大・農学, 2. 岡山大・院環境生命科学, 3. 九州大・院システム情報科学, 4. 福岡農林総試, 5. 岐阜農技セ)

講演番号 P073-A: 野生イネと栽培イネとの染色体領域 置換系統群を用いた野生イネの種子発芽抑制機構に関す る解析

☆佐藤(志水) 佐江¹, Kim Nhung Ta¹, 吉田ゆり¹, 縣 歩美¹, 高橋(野坂) 実鈴¹, 鈴木俊哉¹, 山形悦透², 佐藤豊¹(1. 遺伝研, 2. 九大院農)

講演番号 P075-C: ゲノム再編成が生じたイネ閉花受粉 性突然変異体 H193mt における原因遺伝子の同定と機能 解析

☆黒羽剛 ¹, ロンバルド ファビエン ¹, 大森伸之介 ², 秋 山高 ¹, チェチェトカ スベトラーナ ¹, 吉田均 ¹ (1. 農 研機構・生物研, 2. 農研機構・作物研) 講演番号 P090-B: 多年生イネの栄養繁殖が成長に及ぼ す影響の解析

☆野坂実鈴, 佐藤豊 (遺伝研)

◇ 地域談話会だより

〈中国地区〉

2019年12月21日(土)・22日(日), 岡山大学津島キャンパスにおいて, 第11回中国地域育種談話会が開催された(大会委員長:西田英隆). 参加人数71名, 特別講演2題, 口頭発表5題, ポスター発表32題であった. 優秀発表賞は, 文屋慧亮(O-1), 豊留龍也(O-3), 松永幸子(O-5), 多田健太郎(P-28)の4名に授与された. また, 第12回中国地域育種談話会は, 久野裕先生(岡山大学資源植物科学研究所)を大会委員長として開催されることになった.

【特別講演】

- L-1 岡山県におけるモモ育種研究
- ○小田賢司 (岡山県農総セ生科研)
- L-2 イネ地表根形成に関する遺伝的機構ならびに栽培 環境への適応性の解明
- ○冨田朝美 (岡山大院環境生命)

【口頭発表】

- O-1 オオムギ種子休眠性に関する QTL 間相互作用の解析 ○文屋慧亮・久野裕・佐藤和広(岡山大学資源植物科学研究所)
- O-2 Interspecific hybridization with bread wheat resulted in the development of extra early heading durum wheat \bigcirc G.F. Luo¹ O.N. Imoh¹ K. Takata² H. Nishida¹ K. Kato¹ (1. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U., 2. Obihiro U. Agr. Vet. Med.)
- O-3 ムギ類の野生種及び栽培種で倍数化後に保存される遺伝子機能の特徴 ○豊留龍也1・田中啓介2・小林久人2・辻本壽3・岡本昌憲4・花田耕介1(1.九州工業大学,2.東京農業大学,3.鳥取大学,4.宇都宮大学)O-4 フェノーム解析から見出された抗病原性を活性化させる新規ホルモン様ペプチドの同定 ○西村勇汰1・鳥居怜平1・金有王1・樋口美栄子2・大林祝1・岡本昌憲3・清水みなみ2・吉積毅2・中南健太郎2・篠崎一雄2・関原明2・松井南2・花田耕介12(1.九州工業大学,2.理化学研究所,3.宇都宮大学)
- O-5 パンコムギの異なる生育ステージにおける高温ストレス応答の特性評価 ○松永幸子 1・山崎裕司 2・妻鹿良亮 2・辻本壽 2(1. 鳥取大院・連農, 2. 鳥取大・乾地研)

【ポスター発表】

P-01 Genetic characterization of Cambodian melon

landraces and their relationships with those from neighboring countries

M.N. Pervin¹ • T.P. Dung¹ • K. Tanaka² • S. Yon³ • G. Shigita¹ • S. Sakhan³ • N. Tomooka⁴ • K. Kato¹ (1. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U., 2. Fac. Agr. Life Sci., Hirosaki U., 3. CARDI, 4. NARO/Genet. Resour. Cent.)

P-02 GBS-SNPs データに基づくキュウリ遺伝資源の遺伝的多様性・集団構造解析 ~コアコレクションの開発に向けて~ ○鴫田玄太郎 ¹ • Tran Phuong Dung ¹ • Mst. Naznin Pervin ¹ • 田中克典 ² • 杉山充啓 ³ • 門田有希 ¹ • 西 田英隆 ¹ • 加藤鎌司 ¹ (1. 岡山大院環境生命, 2. 弘前大農生命, 3. NIVFS)

P-03 PCR-based screening of cucumber germplasm for resistance to Target Leaf Spot (TLS) and Zucchini Yellow Mosaic Virus (ZYMV) O. Alessa¹ • M. Takahashi¹ • G. Shigita¹ • K. Tanaka² • H. Nishida¹ • K. Kato¹ (1. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U., 2. Fac. Agr. Life Sci., Hirosaki U.)

P-04 オオムギにおける匍匐性 QTL の検出および早晩性との相互作用に関する研究 ○下戸航平・西田英隆・加藤鎌司(岡山大院環境生命)

P-05 オオムギの新規早生 QTL と生育ステージが出穂 期関連遺伝子の発現パターンに及ぼす影響 ○岩本健・ 加藤鎌司・西田英隆(岡山大・院・環境生命)

P-06 メロン遺伝資源の多様性を利用したつる割病抵抗性遺伝子の機能的 SNP の解析 ○髙橋茉未 1・O. Alessa¹・鴨田玄太郎¹・大寺宇織²・田中克典³・西田英隆¹・加藤鎌司¹(1. 岡山大院・環境生命, 2. 茨城農総セ・生工研, 3. 弘前大・農生命)

P-07 オオムギ品種「カシマムギ」と「イシュクシラズ」 に見出された新規出穂期関連 QTLs に関する遺伝学的解析 〇佐藤桃 1・加藤鎌司 2・西田英隆 2(1. 岡山大農, 2. 岡山大・院・環境生命)

P-08 コムギ系統 "超極早生" が保有する新規早生遺伝子の解析 ○寺尾優太 1・佐藤日向子 2・高柿春花 1・耘野祐誠 2・仁科友希 2・西田英隆 2・加藤鎌司 2(1. 岡山大農, 2. 岡山大・院・環境生命)

P-09 オオムギ品種「はるな二条」の突然変異体に見出された圃場出穂日の変異―エキソーム解析による原因遺伝子の同定に向けて― 〇西田英隆・加藤鎌司(岡山大・院・環境生命)

P-10 マルチスペクトルカメラを用いた *Phedimus* 属 F_1 雑種集団の表現型解析と QTL 解析 〇糀妙子 $1.2 \cdot$ 山崎裕司 $3 \cdot$ 岩田洋佳 $4 \cdot$ 佐々木剛志 $4 \cdot$ 石森元幸 $4 \cdot$ 高梨秀樹 $4 \cdot$ 辻本壽 3 (1. 鳥取大学大学院連合農学研究科, 2. (株) フジタ, 3. 鳥取大乾地研, 4. 東京大)

P-11 小麦の発芽における高温の影響―高温耐性系統選抜へ向けて ○兒玉巽 ¹ • Yasir S.A. Gorafi² • 辻本壽 ² (1. 持続性社会創生・鳥取大院, 2. 乾地研・鳥取大)

P-12 チップ栽培を利用したコムギの簡易促成栽培につ

いて ○内田孝三 1・辻本壽 2 (1. 鳥取大院・持続性社 会創生, 2. 鳥取大・乾地研)

P-13 リン節肥性コムギ系統の生理学的および元素分析 ○山崎裕司 ¹ • Yasir S.A. Gorafi ¹ • Izzat S.A. Tahir ² • 辻本 壽 ¹ (1. 鳥取大学乾燥地研究センター, 2. スーダン農 業研究機構)

P-14 Thinopyrum elongatum 由来 4E 染色体の添加は種子貯蔵タンパク質の発現を低下させ小麦粉生地を弱くする ○宮本和紀1・小谷貴恵2・田中裕之2(1. 鳥取大院・持続性社会創生科学, 2. 鳥取大・農)

P-15 小麦粉品質を決める炭素・窒素含有率の粒数増加による変動 〇六原菜穂1・大西志全2・神野裕信2・山下陽子3・田中裕之1・佐久間俊1(1. 鳥取大農, 2. 道総研北見農試, 3. 道総研中央農試)

P-16 オオムギ種子休眠性を制御する *Qsd1* および *Qsd2* 遺伝子の二重変異体の作出 ○久野裕 1・R. Hoffie²・山根美樹 1・宗森広美 1・J. Kumlehn²・佐藤和広 1(1.岡山大・植物研,2.ドイツ・ライプニッツ植物遺伝作物学研究所)

P-17 現代品種の遺伝背景での農業形質の遺伝構造の理解 ○最相大輔 1・古田智敬 1・轟貴智 2・原口雄飛 2・甲斐浩臣 2・半田裕一 3・佐藤和広 1(1. 岡大植物研, 2. 福岡県農林業総合試験場, 3. 京都府立大学大学院生命環境科学研究科)

P-18 新規プラスミドベクターを利用したレタスのマルチターゲットゲノム編集 ○伊藤岳・山谷浩史・信澤岳・草場信(広島大)

P-19 シロイヌナズナ *HLSI* 遺伝子における花成制御機構の解析 ○本坊雄一朗・信澤岳・草場信(広島大)

P-20 ゲノム編集によるイネ gscl 突然変異体の作成と解析 ○福田周平・山谷浩史・伊藤岳・草場信 (広島大)

P-21 イネの初期成長を促進させる新奇ホルモン様ペプチドをコードする遺伝子の機能解析 ○日野琢也1・樋口美栄子2・金有王1・石崎琢磨3・藤田泰成3・松井南2・Perin Christophe4・Dievart Anne4・花田耕介1,2(1. 九州工業大学, 2. 理化学研究所, 3. 国際農林水産業研究センター, 4. CIARD)

P-22 Identification of candidate SNPs for iron toxicity tolerance at seedling stage in Thai rice varieties

Reunreudee Kaewcheenchai^{1,2} • Kousuke Hanada³ • Kazumasa Shirai³ • Phanchita Vejchasarn² • Chatchawan Jantasuriyarat¹ • Piyada Juntawong¹ (1. Kasetsart University, 2. Rice Department, Chatuchak, 3. Kyushu Institute of Technology)

P-23 六倍体カキの樹内雌雄バランスに関する倍数体用 GWAS 解析 ○増田佳苗 1・白澤健太 2・山本英司 2・河井崇 1・尾上典之 3・河野淳 3・牛島幸一郎 1・久保康隆 1・田尾龍太郎 4・赤木剛士 1(1.岡山大院環境生命科学, 2.かずさ DNA 研究所, 3.農研機構果樹茶業研究部門, 4.京都大院農学)

P-24 モモ遺伝資源および交雑集団におけるモモ黒斑病の罹病性調査 ○浅野貴洋 1・河井崇 2・伊藤那月 1・鵜木悠治郎 3・高田大輔 4・中野龍平 5・福田文夫 2・久保康隆 2・赤木剛士 2・山本幹博 2・牛島幸一郎 2(1.岡山大農, 2.岡山大院環境生命, 3.岡山県農林水産総合農業セ, 4.福島大農, 5.京都大農)

P-25 サツマイモネコブセンチュウ感染時におけるサツマイモの遺伝子発現解析 ○大畑慎一郎1・牛島幸一郎1・田淵宏朗2・田原誠1・門田有希1(1. 岡山大院・環境生命科学, 2. 農研機構・九州沖縄農業研究センター)

P-26 RNA-seq を利用したサツマイモゾウムシ類抵抗性に関与する発現遺伝子の網羅的解析 ○軒原香乃子 1・岡田吉弘 2・大畑慎一郎 1・門田有希 1(1. 岡山大院・環境生命科学, 2. 農研機構・九州沖縄農業研究センター)

P-27 サツマイモネコブセンチュウレース SP2 に対する 抵抗性選抜 DNA マーカーの開発○小畠望美 1・笹井瑠 美 1・田淵宏朗 2・山本英司 3・白澤健太 3・磯部祥子 3・ 田原誠 2・門田有希 2(1.岡山大院・環境生命科学, 2. 農研機構・九沖農研, 3.かずさ DNA 研究所)

P-28 KASP ジェノタイピングアッセイを利用したサツマイモ澱粉合成関連遺伝子の dosage 予測システムの開発 ○多田健太郎 1・田中勝 2・門田有希 1(1.岡山大院・環境生命科学,2.農研機構・九州沖縄農業研究センター)

P-29 QTL-seq を利用したサツマイモネコブセンチュウ 抵抗性に関する遺伝領域の同定 ○青野育美 1・笹井瑠 美 2・高木宏樹 3・門田有希 2(1. 岡山大農, 2. 岡山大 院・環境生命科学, 3. 石川県立大学)

P-30 赤潮原因藻へテロシグマの系統地理学的マーカーの確立を目指した研究 ○妹尾美紀 1・平松諒也 1・Anette Engesmo²・Brian D. Bill³・Vera L. Trainer⁴・長 井敏 5・門田有希 6・植木尚子 7(1. 岡山大農, 2. Norwegian Institute for Water Research(NIVA), 3. NOAA Fisheries,



受賞者の皆さん. 左から文屋慧亮さん, 豊留龍也さん, 松永幸子さん, 多田健太郎さん

4. NOAA Northwest Fisheries Science Center, 5. 国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所, 6. 岡山大院・環境生命科学, 7. 岡山大・植物研)

P-31 高タンパク質含量イネ品種の育成にむけた EG4 系統におけるトランスポゾン mPing の挿入部位解析 〇田中佑奈 1・吉川貴徳 2・門田有希 3(1. 岡山大農, 2. 京大院農, 3. 岡山大院・環境生命科学)

P-32 レトロトランスポゾン挿入多型を利用したサツマイモ品種識別マーカーの開発 ○原田瑞生1・田中勝2・門田有希3(1. 岡山大農, 2. 農研機構・九州沖縄農業研究センター, 3. 岡山大院・環境生命科学)

研究助成公募等の案内

◇ 公益財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 2021 年度研究助成公募のお知らせ

2021 年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学(生物資源等)に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への助成の枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。2021年度助成対象者は次の要領で募集いたします。

- 1. 研究分野:(A) 豆類や穀類の生産技術(栽培,育種,植物栄養,根圏微生物等)に関する研究(B) 豆類や穀類,並びにそれらの加工品の食品機能(栄養機能,嗜好機能,生体調節機能等)に関する研究(C) 豆類や穀類の加工,保蔵,流通技術に関する研究,並びにそれらの発酵に関連する微生物や酵素の探索,特性,利用に関する研究.
- 2. 研究助成対象者: (1) 国内の大学, 短大の研究者 (大学院生も含む) (2) 国公立並びに国立研究開発法人 等の研究機関の研究者 (3) その他本財団の理事会において適当と認められた研究者
- 3. 助成金額: (1) 一般部門(年齢制限なし)1件当たり100万円を7件程度(2) 若手部門(40歳未満)1件当たり50万円を6件程度 ※ 若手部門は,1981年(昭和56年)4月1日以降生まれの方
- 4. 交付時期: 2021年5月予定
- 5. 申請手続き方法:財団所定の申請書に必要事項を記入の上,2021年1月15日から3月10日(必着)までに財団理事長宛てに郵送して下さい。尚、申請書用紙は、タカノフーズ(株)ホームページ(http://www.takanofoods.co.jp/)内の【タカノ財団】からダウンロードできます。または、E-mail にお問合せいただけましたら、書類を添付して返信いたします。
- 6. 申請書請求先及び送付先:〒311-3411 茨城県小美玉

市野田 1542 TEL: 0299-58-4363 FAX: 0299-58-3847 (公財) タカノ農芸化学研究助成財団 E-mail: tazaidan@ takanofoods.co.jp

7. その他:同一研究課題で,他の団体等へ応募され,かつ,本年度重複助成となられた場合には,助成をできない場合がありますのでご注意下さい.

過去助成研究テーマ検索(http://www.takanofoods.co.jp/company/foundation/) タカノフーズ(株) HP 内

日本育種学会会員異動(2020.4.21~2020.10.20)

◇普通会員入会:田薆楠,半澤栄子(宮城県),川勝恭子,杉本貢一,南條洋平,水野信之(茨城県),七森理仁(群馬県),吉田悠里,佐藤(志水)佐江(静岡県),松本彩(愛知県),渡邊みゆき(三重県),中野龍平,西山総一郎(京都府),赤木剛士(岡山県),伊藤岳(広島県),原口雄飛(福岡県),三原実(佐賀県),野田孝博,増田優,安田喜一(熊本県),梅田周(鹿児島県)

◇学生会員入会:北島克哉,福家優花,石原健人,池田 慧(北海道), 佐藤奈乃佳, 三島木隆広(青森県), 高 橋実和子,納谷瑛志(岩手県),髙塚歩,小野彩花,渡 邉明子, 関根聡, 小倉真里奈 (宮城県), 井田圭美, 中 川睦司(秋田県), 天川貴聖(山形県), KEERANON SASIPRAPA, 藤田覚史(茨城県), 岡田眞銀, 切江志 龍, 井町勇登, 玉腰竜之介 (東京都), 舟山枝里, 新井 駿一(神奈川県), 坂口徳子(長野県), LEE SEULGI, 三原春美,福田佑介,横山高明(静岡県),長谷川友美, 遠藤あずみ,渥美紗綾,長谷川昂平,安保知里,鈴木大 介,中山洋平,NOORROHMAH SITI(愛知県),北西哲 也, 福留千映, 小岸玲子, 山本憲吾, 新原由依, 聶紀魯 (京都府), 村上照実, 山下萌 (兵庫県), 前田宜輝, 兪 知樹, 吉永翔一郎 (奈良県), 浅野貴洋, 桒田恵理子, 鈴木茉莉亜, 多田健太郎, 岩本健(岡山県), 窪田隆一, 平尾愛喜, 玉越友梨 (福岡県), 片野航貴, 萩山勇希 (鹿児島県)

◇外国会員入会: CHOUDHARY ARBIND KUMAR, KUMARI SARITA. SUNDARAM RAMAN MEENAKSHI (インド), 清水健太郎 (スイス), MAKSIMOV ROMAN ALEXANDROVICH (ロシア),

住所変更等

◇普通会員:入来規雄,片山健二,松中仁(北海道),岡本和之,間瀬誠子,石井卓朗,川口健太郎,黒田昌治,高原学(茨城県),雨谷弓弥子,市原寿子(千葉県),篠崎良仁(東京都),中野友貴,金達英(新潟県),金子隆史,縣歩美,櫻井雅浩(静岡県),近藤勝彦(愛知県),川崎光代(三重県),山口航平(滋賀県),沼口孝司(和歌山県),齋藤寿広(広島県),妻鹿良亮(山口県),中田克(福岡県)

浙去

宅見薫雄(兵庫県) 謹んでご冥福をお祈りいたします.

訂正

育種学研究第22巻1号の本会会報(128頁)に記載された運営委員会議事録の年度に誤りがございましたので、下記の通り訂正いたします。

- 誤) ◇ 令和元年度 第1回運営委員会議事録
- 正) ◇ 令和 2 年度 第 1 回運営委員会議事録

育種学研究第2巻から第22巻までに掲載された日本 育種学会賞受賞者一覧表の第83号の受賞題目に誤りが ございましたので、下記の通り訂正いたします.

〔第2巻〕

- 誤) ギニアグラスの品種「ナツカゼ・ツユユタカ」の育成
- 正) ギニアグラスの品種「ナツカゼ・ナツユタカ」の育成

[第3~22巻]

- 誤) ギニアグラスの品種「ナツカゼ・ツユユカ」の育成
- 正) ギニアグラスの品種「ナツカゼ・ナツユタカ」の育成